

# これからのCSR活動の あるべき姿は何か

~ これまでのCSRの限界と課題を克服して 本業と一体となったCSRへ ~

> JFS理事長 :多田博之

> > Japan for Sustainability

### JFSの基本的な考え方



「コミュニケーションを 原動力 に」

(コミュニケーションで、社会変動を起こす。)



「双方向のコミュニケーション」のために、 日本から国際社会へ、持続可能性の情報発信の 質量を高めることが、JFS設立のミッション。

# コミュニケーションで変わる(1)

F



日本の取り組み

をつないで発信

企業

政府

自治体

NGO

等など

国連機関

海外企業

海外政府機関

日本の知恵を 海外に届けることで、 国際社会の 環境への取り組みを 加速させる。

海外研究所

海外NGO

Japan for Sustainability

# コミュニケーションで変わる(2)

F



日本の取り組み

に反映させる

企業

政府

自治体

NGO

等など

国連機関

海外企業

海外政府機関

海外からのフィード バックに学ぶことで、 日本の環境への 取り組みの質を さらに高めていく。

海外研究所

海外NGO

Japan for Sustainability

## 活動の基本的内容



- 1. WEB上で日本の持続可能性情報を英語で紹介をする。
- 2. WEBと平行して、メールマガジンを世界のオピニオンリーダー達に定期的に配信する。現在191カ国に配信中。
- 3. 海外からのフィードバックを、日本の各主体につなげ「対話の促進」により、社会変動を喚起する。
- 4. 「日本の持続可能な社会のビジョン、指標」を策定する。
- 5. 各種のプロジェクト運営、「場」のデザインを行う。

# 世界は不条理に満ち満ちている(1)



オックスファム・ジャパン資料より

# 世界は不条理に満ち満ちている(2)



「600から800万トン/年」

# 世界は不条理に満ち満ちている(3)



「10年連続3万人超/年」

#### CSRが目指すべき本来のゴール



- 1) 社会の持続可能性の向上
- 2) 社会の持続不能性の排除
- 3) 社会的価値の向上
- 4) 社会的課題の解決
- 5) 社会の不条理の解決

ビジネスを通して、これら諸課題の解決に挑むこと

#### 環境経営からCSR経営へ



### 私の問題意識:

環境経営において、日本は世界をリードしてきたし、 今も先進的なポジションにある。

しかし、CSR経営はどうなのか? 日本は世界の最先端を走っていると言えるのか?

#### CSRの変遷



- 1) 様々な定義が乱立していた
- 2) 欧州、アメリカ、日本での相違(生い立ちが違う)
- 3) ISO26000による定義
- 4) CSRの3本柱
- 5) CSRが目指すべきゴールとは

#### 欧州の定義



責任ある行動が、持続可能な事業の成功につながるという認識を企業が持ち、ステークホルダーとの関係の中に、問題意識を組み込んでゆくこと

(ホワイトペーパーより)

UK, フランスなどではCSR担当大臣を設置

#### アメリカの定義



社会が企業に対して抱く、 倫理的、商業的、公共的期待にこたえ、 事業を展開してゆくこと

(BSRより)

#### 日本での代表的なとらえられ方



CSR= 環境、コンプライアンス、社会貢献

いまだにこの捉え方が支配的

それだけでいいのでしょうか?

#### 様々な定義の一例(1): A社



「経営理念に基づき、当社の経済的、社会的、 環境的活動をグローバルな視点で再点検し、 その説明責任を果たし、企業価値を上げること。」

#### 様々な定義の一例(2): B社



「 企業が持続的に発展するために、社会から見て 好ましい存在として信頼されることを目指す。 」

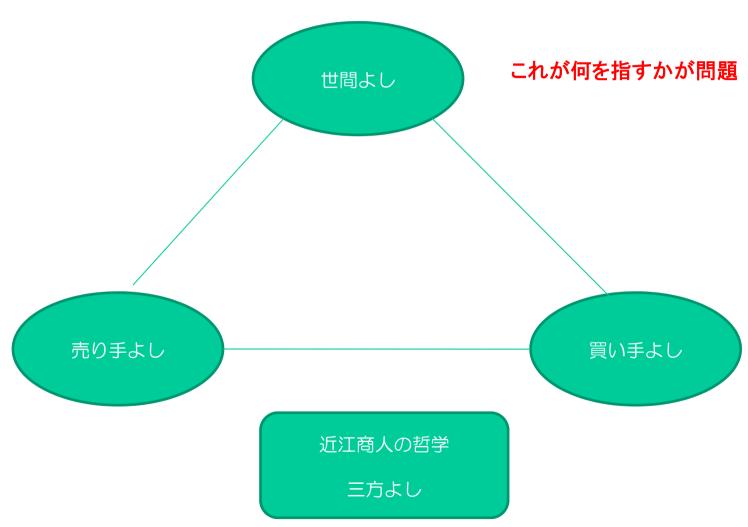
#### 様々な定義の一例(3): C社



「CSRとは社員一人ひとりがよい仕事を 考え実践し、企業価値を向上させていくこと。」

# CSRは日本ではむかしからやっていた?





#### CSRの定義: ISO26000より



組織の決定および活動が社会及び環境に及ぼす影響に対して、透明で倫理的な行動を通して組織が担う責任

健康及び社会の繁栄を含む持続可能な発展に貢献する

ステークホルダーの期待に配慮する

関係法令を順守し、国際行動規範と整合している

その組織全体に統合され、その組織の関係の中で実践される

#### CSRの構成要素: ISO26000より



- 1) 環境
- 2) 人権
- 3) 労働慣行
- 4) 組織のガバナンス
- 5) 公正な商習慣
- 6) コミュニティ参画・社会開発
- 7) 消費者課題

(欧米では社会貢献は含まれていない) 時にこれらをESGと呼ぶ

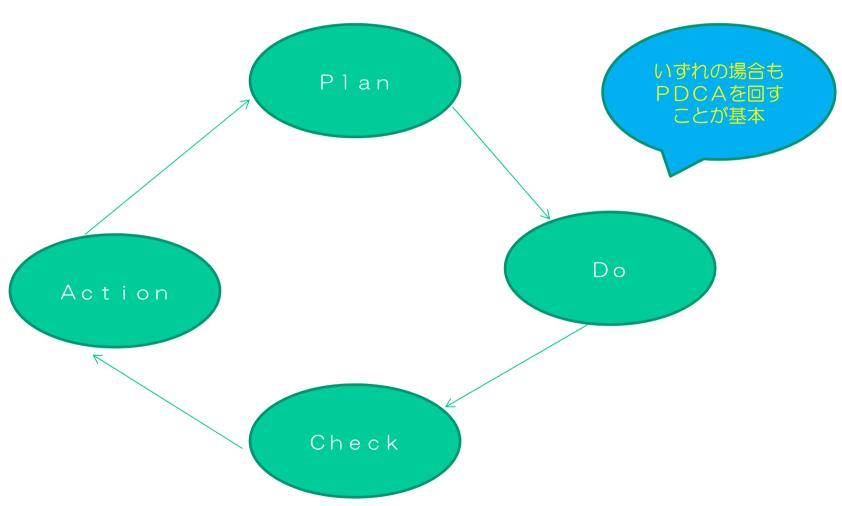
#### CSRのその他の考えうる構成要素



- 1) コンプライアンス
- 2) コーポレートガバナンス
- 3) リスクマネジメント
- 4)情報開示
- 5) 品質、製品安全
- 6) 個人情報管理
- 7) 情報セキュリティ
- 8)雇用
- 9) 社会貢献

# いずれの場合もPDCAを回し続けること





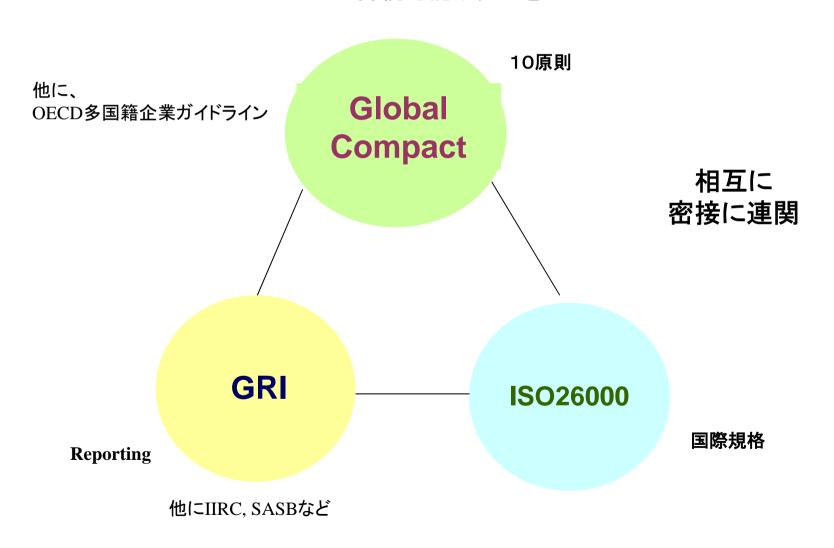
#### 情報開示の意義



- 1) PDCAの出口
- 2) CSRで行ったことを会社の趣味にしない
- 3) 財務情報・非財務情報の開示
- 4) フィードバックを使いPDCAを回すことに活用
- 5) 読み手は誰なのか、何で何を伝えるのか

# CSRの3つのボトムライン

~ ビジネスセクターが持続可能な社会をつくるためのコミットメント



## 国連ミレニアム開発目標

#### Millennium Development Goal:

21世紀の社会開発における8つの目標: 2015年に向けて

⇒ MDGs から SDGs: Sustainable Development Goals へ

1) 貧困と飢餓の撲滅: 地域間公正

2) すべての子供に一次教育の提供: 世代間公正

3) 性の平等、女性に権限を付与: 多様性

4) 小児死亡率の低下: 地域間公正

5) 産婦の健康促進: 世代間公正

6) HIV, AIDS、マラリア等の病気への対策: 地域間公正

7) 環境的な持続可能性の確保: 資源・容量

8) 開発へのグローバルパートナーシップ確立: つながりと参加

# 国連と企業とを直接つなぐGlobal Compact

様々な国連機関による多様なプログラム

**UNDP** 

UNEP

UNICEF

UNIC

国連大学

などなど

共通認識: 世界をよりよい方向に変えるには ビジネスセクターの協力が不可欠。

アナン事務総長から蕃事務総長へのリレー 全世界7000数百団体、日本数100団体が加盟

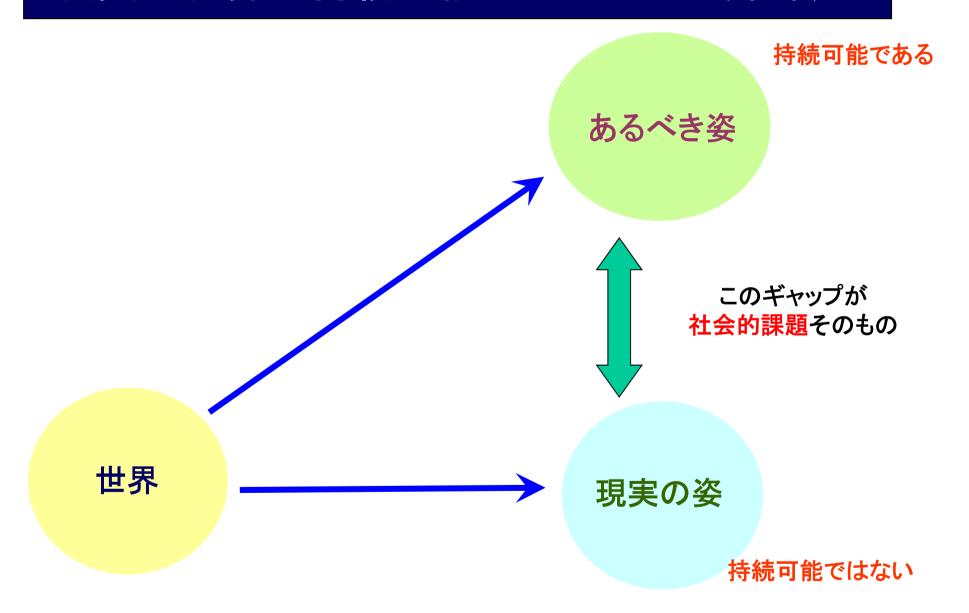
# グローバルコンパクトの中身



- 1) 人権
- 2) 労働
- 3) 環境
- 4) 腐敗防止

1999年 アナン事務総長が提唱 10原則、4つのカテゴリー

# 現実の世界は持続可能ではないという認識



# CSR: 多田の定義



企業がステークホルダーとの 信頼関係を高めながら、 持続可能な社会への転換に寄与すること。

#### 日本型CSRからの脱却



日本のCSRは、コンプライアンス型、 チェックシート方式偏重のものが極めて多く、 CSR本来の役割を果たしていない企業が多々ある。

⇒ なぜ、そうなってしまったのか?

#### 私の仮説

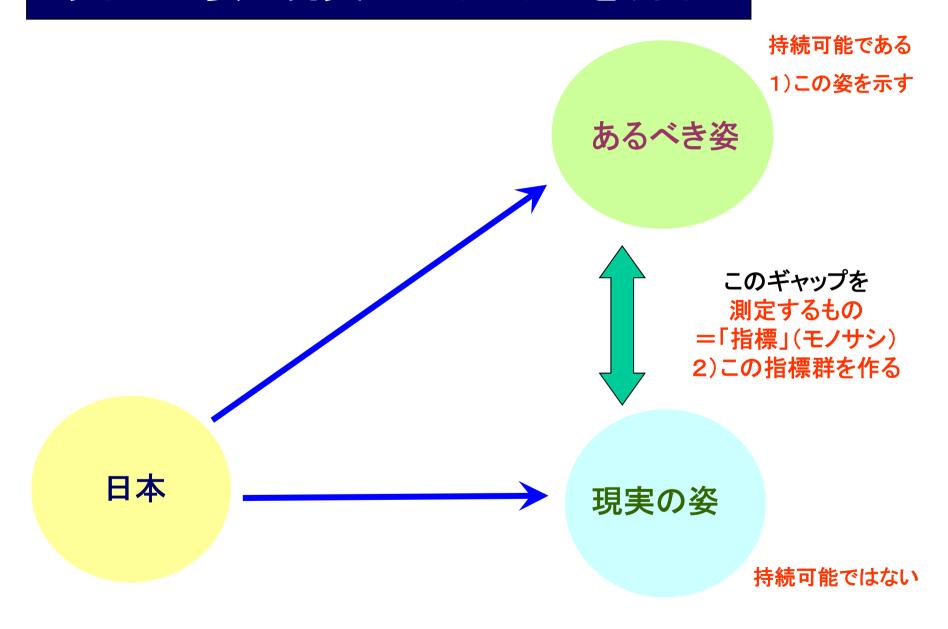


- 1) CSRは黒船でやってきた(内発的発展でない)。
- 2) 日本のあるべき社会像、社会ビジョンが共有されていない。
- 3) CSRと表裏一体である「持続可能性」が掘り下げて 考察されていない。
- 4) 経営者の無関心、無理解。

#### 「ビジョン・指標プロジェクト」における課題認識

- 1) 持続可能な社会とは、そもそも何なのか? 「日本のあるべき姿」が明瞭に見えない
- 2) 活動が個別の局地戦で、総合戦略が希薄 日本はいったい持続可能な社会に 近づいているのか 遠ざかっているのか

# あるべき姿と現実とのギャップを測る



## 持続可能性: そもそもの定義

# 1987年 ブルントラント委員会:

Brundtland Commission (1987)

"Our Common Future "

「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」

⇒ 世代間公正 将来世代への責任が基本的な思想

### 持続可能性: 実は古くからあった定義

「 あなたがある意志決定をする時には、 つねに7世代先の人たちのことを考えてから、 決定をしなさい。」

⇒ アメリカネイティブインディアンの考え方

「 地球は過去の世代からの授かり物ではなく、 将来世代からの預かり物。 」

⇒ アポリジニやアイヌなど先住民族に共通する思想

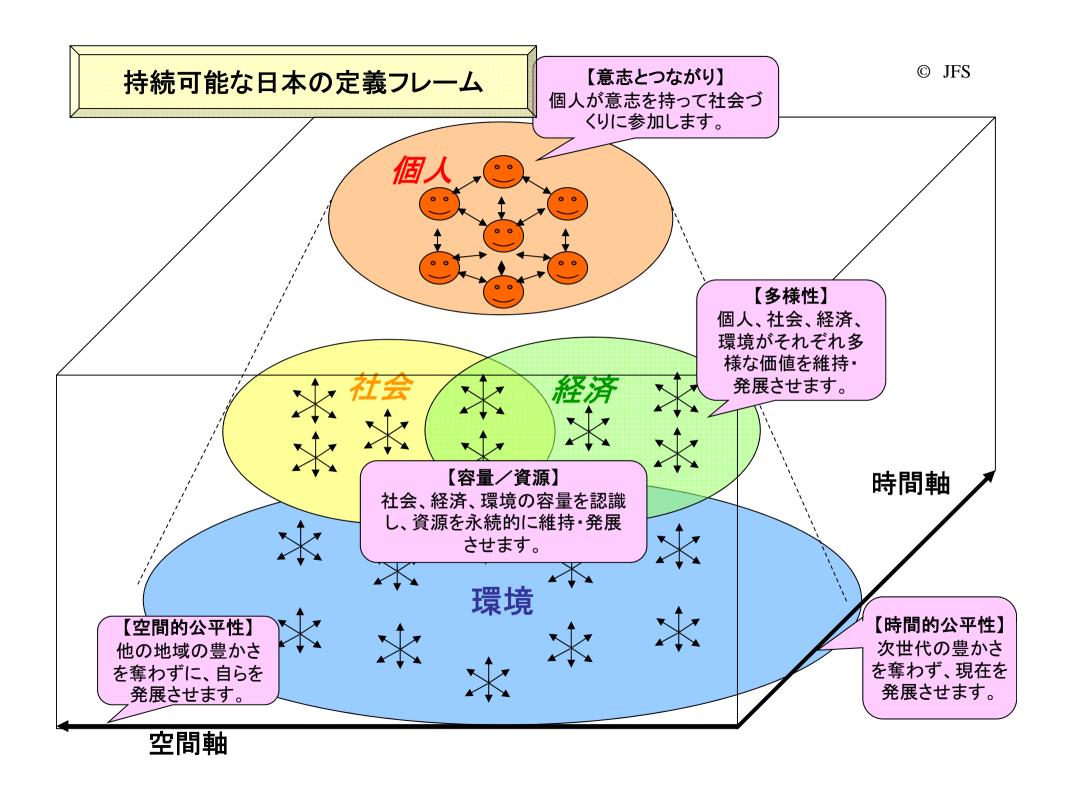
# 持続可能性の様々な定義

Caring for the Earth
Sustainable Seattle (自治体)
Friends of the Earth Scotland (NGO)
The Natural Step Four System Conditions (NGO)
Our Common Future
WBCSD (產業界)
ICCR Etc.

⇒ 世界には100以上のサステナビリティの定義あり ハート女史による定義の収集WEBサイト 環境を中心とした定義から様々に派生 環境・経済・社会: トリプルボトムライン概念の台頭

#### 持続可能性: JFSの定義

「 人類が他の生命をも含めた多様性を尊重しながら、 地球環境の容量の中で、 いのち、自然、くらし、文化を次の世代に受け渡し、 よりよい社会の建設に意志を持ってつながり、 地域間・世代間を越えて 最大多数の最大幸福を希求すること。」



#### 持続可能な日本のあるべき姿を描く

#### 次に

#### 持続可能性の観点から、

私たちはどんな社会を目指しているのか、あるべき姿を描く

持続可能な社会 VS ユートピア、理想郷 e.g. 笑顔あふれる国

- 1) 持続可能性の定義: 5つの要件
- 2) 持続可能性の要素:環境、経済、社会、個人
- 3) 日本社会の特質、特性への考察
- 4) フレームワークアプローチ: 全体システム志向
- 5) バックキャスティングで考える

## それぞれの重要概念によるモデル化

環境:人と自然の共生、「風土」、多様な生態系、

自然修復、自然循環、里山、鎮守の森、疎水

経済: 自立分散型自給経済、環境効率、資源生産性、

伝統と先端技術、地域振興、国際貢献

社会:相互支援、機会平等、地域文化、コミュニティ活性化、

スローライフ、自然に生かされる

個人: 生活の質、健康で安全、長寿、天職、自由と市民参加、

倫理涵養、能力開発と成長

#### フォアキャスト思考とバックキャスト思考



フォアキャスト: 現状分析や過去の統計、実績などのデータをもとに、未来を演繹的に予測するやり方。我々の通常の思考形態。過去から現在へ向かって起きている様々な事象の延長線上に未来があると考える手法。

バックキャスト: 未来を考える上で、目標となるような状態・状況を想定し、そこから現在に立ち返って、今何をすべきかを考えるやり方。まず、未来がどうなっているかを想像し、そこから今に立ち返って課題設定や問題解決を考える。

#### 持続可能な日本のあるべき姿

# 全文をJFSウェブで公開中 ぜひご覧ください!

⇒ 2005年に第1版をはじめて国内外に発表 海外から、より大きな反響があった。

#### 持続可能な日本のあるべき姿 (行政の取り組み)

- 1) 2050 日本低炭素社会シナリオ <a href="http://2050.nies.go.jp/index\_j.html">http://2050.nies.go.jp/index\_j.html</a>
- 2) 超長期ビジョン

http://www.env.go.jp/policy/info/ult\_vision/index.html

3) 21世紀環境立国日本シナリオ

http://www.env.go.jp/guide/info/21c\_ens/index.html

2007年になって矢継ぎ早に発表される。いずれも2050年を目標年度に置いている。

## 5つの持続可能性要件と4つのカテゴリー

	容量· 資源	世代間 公平性	地域間 公平性	多様性	意志と つながり
1)環境	資源循環・廃棄物 水・土・空気	温暖化	温暖化	生物多様性	環境教育
2) 経済	エネルギー 資源生産性 食糧	財政	食糧 国際協力	エネルギー	国際協力
3) 社会	安全	伝統•文化	モビリティ	ジェンダー・ マイノリティ 伝統・文化	社会責任投資
4)個人	心身の健康	生活格差	生活格差	市民参加	生活満足 学力・教育 心身の健康 市民参加

# フレームワーク志向



持続可能性の価値概念

公平性 時間(将来世代) 空間(南北問題) 多様性 容量・資源 意志とつながり

日本固有の事情の考慮

持続可能な日本のビジョン

(4つの持続可能性)

フレームワーク(価値概念と4軸との関係性)

(システム/フレーム)

環境

十 経済

+

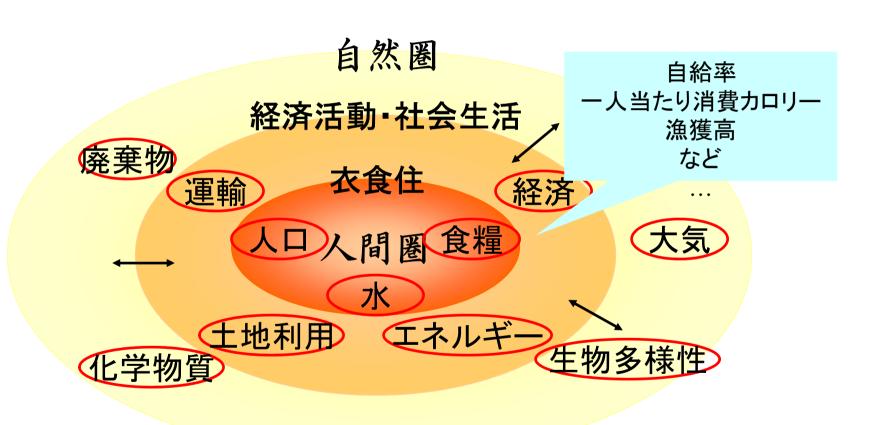
社 会 十

個 人

4カテゴリー×各5ヶ=20指標 による持続可能性の測定

指標の選別/スクリーニング

## JFS指標・データベースのモデル



#### 人口

人口 肥満人口 出生率 死亡率

#### 運輸

自動車生産台数 自転車用道路長 鉄道利用状況

## 廃棄物

産業廃棄物 排出量 一般廃棄物 排出量

#### 資源

スチール缶・アルミ缶 リサイクル率 PETボトル回収率 木材輸入量

#### 水

降水量 一人当たり使用量 分野別使用量 安全性指標 自給率(輸出入)

#### 食糧

大学 「「「「「「」」」」 漁獲高 食料自給率 安全性指標 食品別エネルギー含有量推移

エネルギー

土地利

GDP,GNP 自己破産件数 個人預貯金額 都道府県別経済指標

#### 化学物質

経済

新規化字物質登録数 ダイオキシン排出量 環境ホルモン 化学物質過敏症健康被害 環境汚染物質 排出移動登録(PRTR) ポリ塩化ビニル使用量 森林面積 公園面積 自然環境 保全地域面積

#### 生物多様性

生息種 絶滅危惧種(RDB) 哺乳類・鳥類 両生類・爬虫類 植物・昆虫類 化石燃料使用量 電力消費量 風力発電発電量 原子力発電発電量

#### 大気

温室効果ガス排出量 ダイオキシン類排出量 二酸化窒素濃度 浮遊粒子状物質 年平均気温

これらを4軸ごとに5分類

20のサブカテゴリーに整理 ⇒ WEBに掲載

#### 指標とは何か

- 1) モノサシ
- 2) これにより「あるべき姿」と「現状」とのギャップを 測定し、定量化するためのツール
- 3) データの中から意志を持って選び出すもの
- 4) JFS独自に今回20の持続可能性指標を選定
- 5) 網羅性よりも代表性、わかりやすさを重視 ⇒ ヘッドライン指標
- 6) 国単位で持続可能性指標を持つ国は約38カ国 (JFSでの調査による、日本は未策定)

#### 指標の選び方

#### JFSでは10の選別基準を重視:

厳密性・網羅性よりも、象徴性・理解可能性に重きを置く

- 1) 持続可能性の観点
- 2) 代表性•重要性
- 3) 連関性
- 4) 実現可能性
- 5) 象徵性
- 6) 理解可能性·容易性
- 7) 比較可能性
- 8) プロセス志向
- 9) マルチステークホルダー視点
- 10) 公平性

#### 20の指標一覧

#### 環境(Nature)

- N-1) 絶滅に瀕しているワシタカ類の種の割合
- N-2) 一人当たり温室効果ガス排出量(年間)
- N-3)1人1日あたりのごみ総排出量
- N-4) 化学合成農薬の投入量
- N-5) グリーンコンシューマの割合

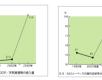
















#### 社会(Society)

- S-1)一般刑法犯発生率
- S-2)15歳以上の自宅外通勤・通学者の利 用交通手段に占める「自転車だけ」の割合
- S-3)国会の議席数に占める女性の割合
- S-4)伝統的工芸品の生産額
- S-5)SRI型投資信託の総投資信託純資産残 高に占める割合











## 経済(Economy)

- E-1) 再生可能エネルギー・リサイクル型エネル ギーの割合
- E-2)GDP/天然資源等の投入量
- E-3)カロリーベースの食料自給率
- E-4) 一般政府の債務残高(対GDP比)
- E-5) 国民総所得(GNI)における援助額の割合









#### 個人(Well-being)

- W-1)現在の生活に満足している人の割合
- W-2)OECDによる学習到達度調査(PISA)
- W-3)1日の余暇時間に占めるボランティア・社 会参加活動への参加時間の割合
- W-4) 自殺死亡率
- W-5)生活保護率











#### 総括(1)日本は持続可能性に向かっているのか?

$$41.3$$
 (1995年) =>  $33.5$  (2005年) =>  $40.3$  (2015年)

#### 技術力が牽引する分野は向上

「資源環境・廃棄物(環境)」「エネルギー(経済)」「資源生産性(経済)」など、資源・容量に関する指標は、不十分ながらも多少は改善傾向。科学技術の革新の恩恵といえるか。

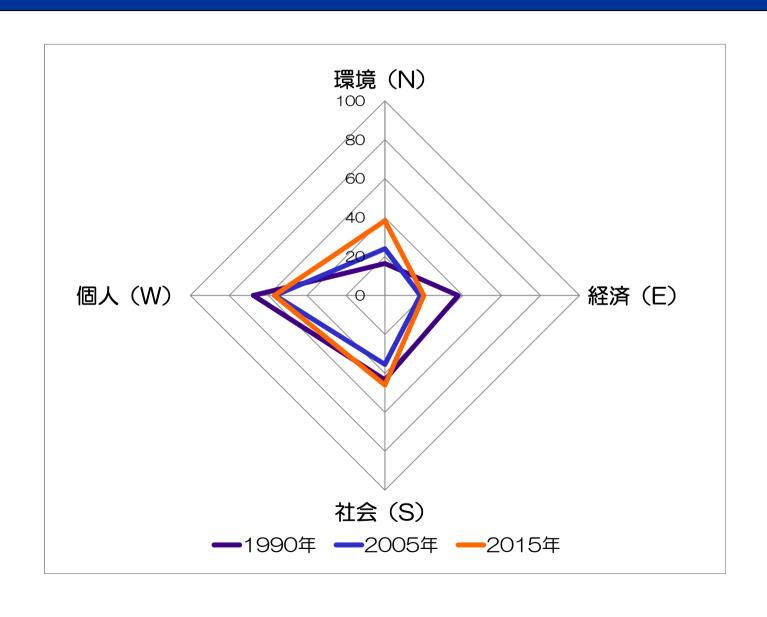
#### ・ 公平性を担保する仕組みが不足

大きく後退している「財政(経済)」や「生活格差(個人)」は、世代間と地域間という違いはあれど、ともに公平性にまつわる指標。この両指標を向上させる取り組みをしなければ、今後さらなるひずみを招きかねない。

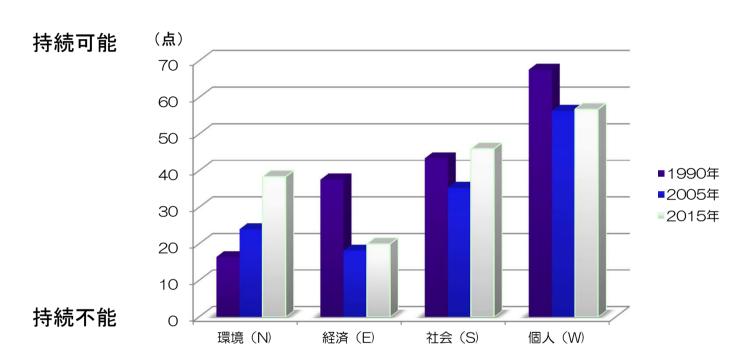
#### • 自由意志を阻む旧態依然体質

「環境教育・システム(環境)」「社会に配慮した投資(社会)」「生活満足(個人)」「学力・教育(個人)」など、人々の意思が問われる指標は、向上もしくは高値安定傾向がある。 一方、「ジェンダー・マイノリティ(社会)」の伸び悩みに見られるように、古い社会規範に縛られ、多様性が尊重されない傾向は変わらない。

## 総括(2)日本は持続可能性に向かっているのか?



## 総括(3) 際立つ経済の"持続不能性"

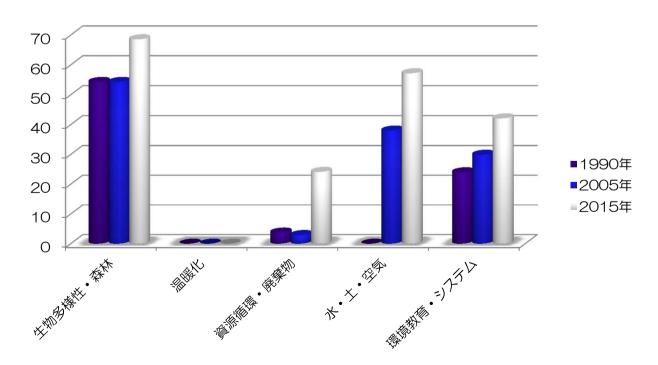


点数		状態
100	Sustainable	持続可能またはそれに近い状態。2050年目標をすでに達成。
80-99	Fair	まずまずの状態。Sustainableに近づいている、近い。
60-79	Strong caution	要注意。Sustainabilityが脅かされている。不安、不安定
40-59	Dangerous	危険。持続可能性を損なう事象が顕在化している。不十分。
20-39	Very dangerous	非常に危険。持続可能性から遠ざかっている。不満。
20未満	Disastrous	破滅的。持続不能、他国に比べ著しく劣る、論外の状態。

#### 環境 (Nature)

#### 16.4 = > 24.0 = > 38.4

- 5指標のうち4つが上向き。とくに「資源循環・廃棄物」は改善傾向。「生物多様性」については、レッドリスト掲載の種数は増加。予断を許さない。
- 「温暖化」はグラフ上は横ばいだが、実数では悪化。石炭火力発電所の増設計画など「パリ協定」に逆行。



## 環境 (Nature) - 資源循環・廃棄物

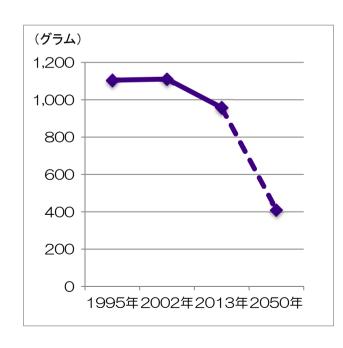
## 一人当たりのごみ総排出量(1日)

#### <容量・資源>

1990年 - 4点

2005年 - 3点

2015年 - 24点

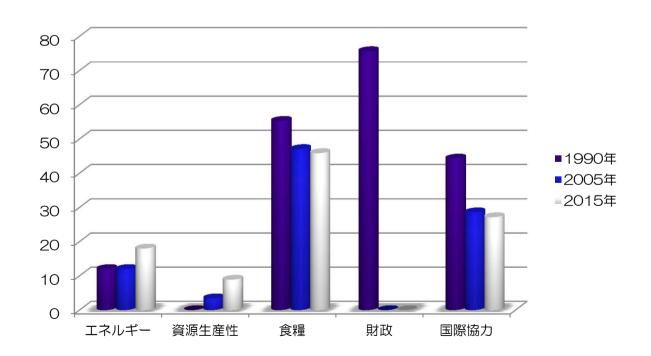


カテゴリー	N-3
サブカテゴリー	資源循環•廃棄物
指標	一人当たりごみ総排出量(一日)
指標を選んだ理由	持続可能な社会では、廃棄物の発生が最小限に抑えられ、むだなく資源が循環している。自然界にあるような持続可能な資源循環を実現するためには、大量生産・大量消費・大量リサイクルとしてエネルギー消費を増大するのではなく、まず発生を抑制し、自然が分解できる質量にすることが必要である。そのためには一人一人のライフスタイルの変革がかぎを握っており、一人の一日当たりごみ総排出量を指標に選んだ。
	958グラム(2013年度)
2005年の数値	1,111グラム(2002年度)
1990年の数値	1,105グラム(1995年度)
2050年の目標	411グラム
最低レベル(0 点)	1132グラム
あるべき姿	<u>411グラム</u>
	エコロジカルフットプリントは、ある地域の人間の生活を支えるのに、どれだけ"生物学的に生産可能な土地・水域"が必要かを面積で表したものである。現在、地球が実際に供給可能な面積は2.18haだが、日本のエコロジカルフットプリントは5.94haあり、世界全員が日本人のような生活をすれば、世界は2.7個必要ということになる。これは日本人の生活から出る環境負荷を約1/3(正確には1/2.7)にする必要があることを示しており、今回は仮説としてこの数値をごみ排出量にも適用した。
(100点満点)	24
2005年の得点 (同)	3
1990年の得点 (同)	4
得点算出方法	(現在値-最低値) / (2050年の目標値-最低値) *100
出典	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成25年度)について」より
ーロメモ	全国の一般廃棄物(ごみ及びし尿)の総排出量は5,161 万トンで、ここ数年横ばいが続く。
データソース	http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h25/data/env_press.pdf

## 経済 (Economy)

#### 37.6 = > 18.2 = > 20.0

- 「エネルギー」「資源生産性」はまったく不十分ながらも微増。
- 「財政」(国の債務)が悪化の一途をたどり、危機的な状況。 他国との関係にある「食糧」「国際協力」も低調。



## 経済 (Economy) - 財政

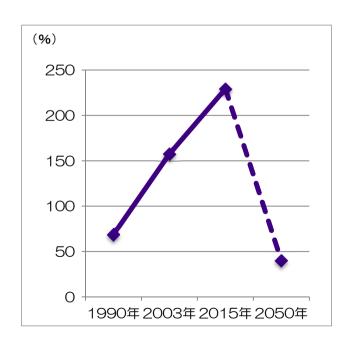
## 一般政府の債務残高(対GDP比)

#### <世代間公正>

1990年 - 76点

2005年 - 0点

2015年 - 0点

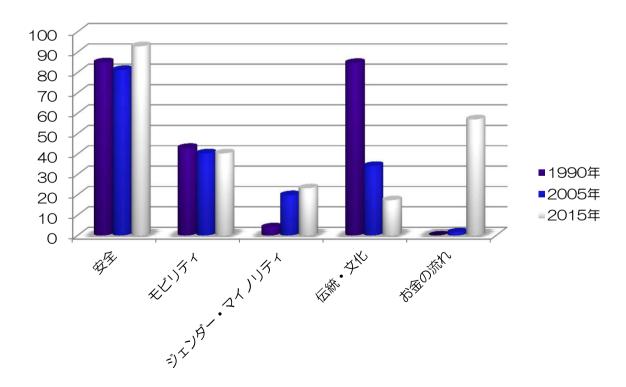


カテゴリー	E-4
サブカテゴリー	財政
指標	一般政府の債務残高(対GDP比)
指標を選んだ理由	日本は歳入の4割を国債に依存しており、債務残高は、先進国の中でも群を抜いて高く、 年々増加をしている。このままの状況が続けば、現行世代が享受している経済的豊かさ は未来世代へ持続的に受け継ぐどころか、負担だけを押し付けてしまうことになり、持 続可能性を大いに損ねてしまう。国民1人1人の努力で解決できる規模の問題ではなく 国レベルでの議論と選択が必要である。またここでは他国と比較をしやすくするため、 対GDP比の数値とした。
現在値	229.2%(2015年)
2005年の数値	157.5%(2003年)
1990年の数値	68.6%
2050年の目標	40.0%
最低レベル(0点)	157.5%
あるべき姿	0%
あるべき姿と2050 年目標値の理由	日本の債務残高は過去にない規模と増加速度に達しており、目指すべき数値については専門家によって議論が行われているところである。ここで参照としたのが、国の財政状況に関してマーストリヒト条約でユーロへの参加条件として定められた政府債務残高GDP比60%以下という基準や、イギリスで「サスティナビリティ・ルール」の一つとして定めた財政健全化のための独自の基準(公的債務残高GDP比40%以下)だ。債務がないことが最も健全であるとの観点からあるべき姿は0%とした。また2050年の目標値については専門家の議論をまつところだが、議論の出発点としてイギリスの定めるGDP比40%以下とした。
(100点満点)	0
(同)	0
1990年の得点 (同)	76
得点算出方法	(現在値-最低値) /(2050年の目標値-最低値) *100
出典	財務省サイト「債務残高の国際比較(対GDP比)」
ーロメモ	「OECD エコノミック・アウトルック」98号の概要(内閣府作成・仮訳)は以下に。 http://www5.cao.go.jp/keizai1/kokusai-keizai/oecd-eo98.pdf
データソース	http://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/007.htm

## 社会 (Society)

#### 43.4 = > 35.4 = > 46.0

- 「お金の流れ」は大きく向上。「安全」は改善。「ジェンダー・マイノリティ」はわずかに上向くも、国際的には最低レベル。
- ・ 「伝統・文化」は持ち直す気配なし。



## 社会 (Society) – ジェンダー・マイノリティ

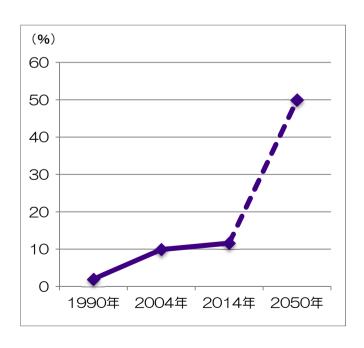
## 国会の議席数に占める女性の割合

<多様性>

1990年 - 4点

2005年 - 20点

2015年 - 23点

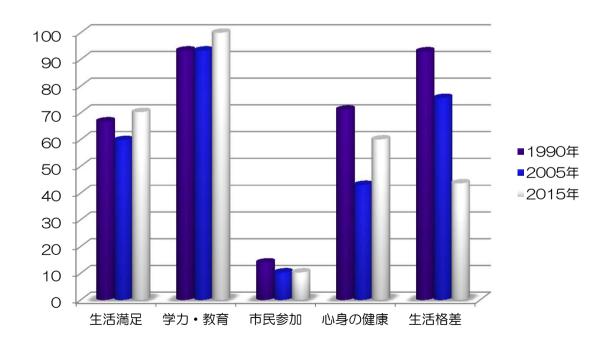


カテゴリー	S-3
サブカテゴリー	ジェンダー・マイノリティ
指標	国会の議席数に占める女性の割合
指標を選んだ理由	持続可能な社会では、よりよい社会の建設に向けて多様な主体が参画し、最大多数の幸福実現を目指す。しかし日本では女性の社会参加のレベルがOECD諸国と比べても極端に低い。女性が政治や経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測る指標「ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)」(国連開発計画)では、国会議員に占める女性の割合、専門職・技術職に占める女性割合、管理職に占める女性割合、男女の推定所得を用いて指数を算出するが、このなかで日本が突出して低い国会議席数の割合を指標とした。政治への参加が高まればさまざまな政策に影響し、社会全般への波及効果が大きいと考えられる。
現在値	11.6 %(2014年)
2005年の数値	9.9%(2004年)
1990年の数値	2%
2050年の目標	50%
最低レベル(0点)	0%
あるべき姿	50%
あるべき姿と2050年 目標値の理由	国の男女共同参画基本計画にある「11の重点目標」の1番目に「政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」がうたわれている。あるべき姿並びに2050年の目標値としては、ジェンダーの多様性をより正確に反映した50%(男女の人口比)とした。女性の社会参加の結果としての指標であるので、厳密に50%である必要はもちろんない。ただ女性の社会参画が進んでいるスウェーデンでは45.3%(2004年)あり、目標値は十分実現可能な領域にある。経済を含めた社会全般への影響が大きいと考えられ、2050年まで待たすきるだけ早期に実現することが望ましい。
2015年の得点 (100点満点)	23
2005年の得点(同)	20
1990年の得点(同)	4
得点算出方法	(現在値-最低値)/(2050年の目標値-最低値)*100
出典	『人間開発報告書2014』(国連開発計画)
ーロメモ	2004年現在、最も女性の割合が高いのはスウェーデンの45.3%。日本のGEM値は0.531で、世界177 カ国中38位である。
データソース	http://www.jp.undp.org/content/dam/tokyo/docs/Publications/HDR/2015/UNDP_Tok_HDRJapan_20151 214.pdf

## 個人の豊かさ・生活の質(Well-being)

#### 67.6 = > 56.4 = > 56.8

- ・「生活満足」「学力・教育」ともに比較的高く、「心身の健康」に回復の兆し。
- 「市民参加」が低い傾向は変わらず、「生活格差」は大きく広がった。



## 個人の豊かさ・生活の質(Well-being) - 生活格差

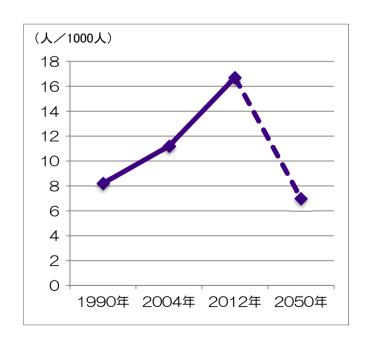
## 生活保護率(人口1000人あたり)

#### <地域間公平性>

1990年 - 93点

2005年 - 76点

2015年 - 44点



カテゴリー	W-5
サブカテゴリー	生活格差
指標	被生活保護者の保護率
指標を選んだ理由	暮らしに困る国民に健康で文化的な最低限度の生活を保障するものとして生活保護制度がある。生活保護率の推移をみると、戦後の1000人あたり約24.2名から経済成長とともに7.0(1995年)まで低下したが、その後増加を続け2004年には11.2%に達している。現在生活保護者の9割を高齢者・障害者が占め、伸びをみると、高齢化の影響を受け高齢者世帯が増加し、また、不況の影響から母子・その他(50歳代単身者等)世帯も増加している。社会が経済的な豊かさを享受する一方で決定的な困窮に陥る人が徐々に減少していくような経済・社会の成長を遂げたい。
現在値	16.7人(人口1000人あたり)(2012年)
2005年の数値	11.2人(人口1000人あたり)(2004年)
1990年の数値	8.2人(人口1000人あたり)(1990年)
2050年の目標	7.0人(過去60年間で最も少ない1995年の数値)
最低レベル(0点)	24.2人(過去60年で最も多い1945年の数値)
あるべき姿	できるだけ少なくなるような経済社会
あるべき姿と2050 年目標値の理由	生活保護法とは、国が国民の健康で文化的な最低限度の生活を守るために、生活困窮者に対して必要な保護を行い、その自立を助長するためのものである。持続可能な社会のあるべき姿とは、つまり全ての国民が健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる社会である、という考えからあるべき姿を決定した。最低点としては、同データが収集され始めた昭和26年の保護率を最低点とした。
2015年の得点 (100点満点)	44
2005年の得点 (同)	76
1990年の得点 (同)	93
得点算出方法	(現在値−最低値)/(2050年の目標値−最低値)*100
出典	厚生統計要覧(平成27年度)
	事前にリスクに備える社会保険に対し、生活保護は困窮状態に陥ってから事後的に助ける「最後のセーフティネット」の意味合いが強い。その意味で、「あるべき姿」は、「できるだけ少なくなるような経済社会」である。また2050年の目標値は、過去60年間で最も数値の低かった7.0人とした。ただし、これはあくまで結果指標であり、この数値を達成するために生活保護が必要な方にも提供しないようになっては本末転倒である。
データソース	http://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_3_1.html(第3-5表)

#### JFSによる持続可能性フレームワークと20の指標

4 軸	持続可能な目指す べきモデル	サブカテゴリー	ヘッドライン指標	持続可能性の価値概念との相関	指標の種類
N) 環 境	<ul><li>・人と自然の共生</li><li>・「風土」の概念</li><li>・多様な生態系と在来種の保全</li><li>・自然修復</li><li>・自然循環の重視</li><li>・里山、鎮守の森</li></ul>	1) 生物多様性・森林 2) 温暖化 3) 資源循環・廃棄物 4) 水・土・空気 5) 環境教育・システム	<ol> <li>絶滅に瀕しているワシタカ類の種の割合</li> <li>一人当たり温室効果ガス排出量(年間)</li> <li>1人1日あたりのごみ総排出量</li> <li>化学合成農薬の投入量(露地野菜、10aあたり)</li> <li>グリーンコンシューマの割合</li> </ol>	多様性 世代間公正・地域 冠公正 資源・容量 資源・容量 意志とつながり	状 負 負 荷 荷 荷 変 革
E) 経済	<ul><li>・自立型経済体制</li><li>・分散型自給経済</li><li>・環境効率</li><li>・資源生産性</li><li>・伝統と先端技術</li><li>・地域振興</li><li>・国際貢献</li></ul>	<ol> <li>1) エネルギー</li> <li>2) 資源生産性</li> <li>3) 食糧</li> <li>4) 財政</li> <li>5) 国際協力</li> </ol>	1) 再生可能エネルギー・リサイクル型エネルギーの割合 2) GDP/天然資源等の投入量 3) カロリーベースの食料自給率(供給熱量総合食料自給率) 4) 一般政府の債務残高(対GDP比) 5) 国民総所得(GNI)における援助額の割合	資源・容量 資源・容量、地域 問公正 地域間公正 世代間公正 意志とつながり	変
S) 社会	<ul><li>スローライフ</li><li>自然に生かされる</li><li>相互の助け合い</li><li>機会の平等</li><li>地域文化</li><li>相互交流</li></ul>	<ol> <li>安全</li> <li>モビリティ</li> <li>ジェンダー・マイノリティ</li> <li>伝統・文化</li> <li>社会に配慮した投資</li> </ol>	1) 一般刑法犯発生率(人口10万人あたりの発生件数) 2) 15歳以上の自宅外通勤・通学者の利用交通手段に占める「自転車だけ」の割合 3)国会の議席数に占める女性の割合 4)伝統的工芸品の生産額 5) SRI型投資信託の総投資信託純資産残高に占める割合	資源・容量 地域間公正 多様性 多様性 意志とつながり	負荷 状況 状況 変革
w) 個人	<ul><li>・ 笑顔</li><li>・ 自由と市民参加</li><li>・ 能力開発、成長</li><li>・ 倫理涵養</li><li>・ 健康で安全</li><li>・ 天職</li></ul>	1) 生活満足 2) 学力・教育 3) 市民参加 4) 心身の健康 5) 生活格差	<ol> <li>現在の生活に満足している人の割合</li> <li>OECDによる学習到達度調査 (PISA)</li> <li>1日の余暇時間に占めるボランティア・社会参加活動への参加時間の割合</li> <li>自殺死亡率 (人口10万人あたりの自殺数)</li> <li>生活保護率</li> </ol>	意志 意志、多様性 資源·容量、意思 世代間公正、地域 間公正	状況 変 ず 状況 状況

#### プロジェクトから見える課題

- 1) 代替指標を入れ替えたときの信頼性の担保 (感度分析の必要性)
- 2) Aggregation & Weighting
- 3) ビジョンと指標との緊密な相関性の確保
- 4) 各指標のタテ・ヨコの相関関係
- 5) タテ: サブ指標の設定
- 6) ヨコ:環境・経済・社会・個人の相関解析

#### 様々な持続可能性指標

#### 1) エコロジカル・フットプリント:

「 ある資源消費量を産み出すのに必要な自然再生能力を算定し、 生産可能な土地面積と比較して評価する持続可能性の指標」

2) GPI (Genuine Progress Indicator)

GDPの欠陥を補正する真の進歩指標

3) The Wellbeing of Nation: IUCN

世界180カ国の持続可能な開発をランキングするWellbeing Assessment

4) Environmental Sustainability Index (ESI)

Componentの集計による詳細な分析

5) エコロジカル・リュックサック

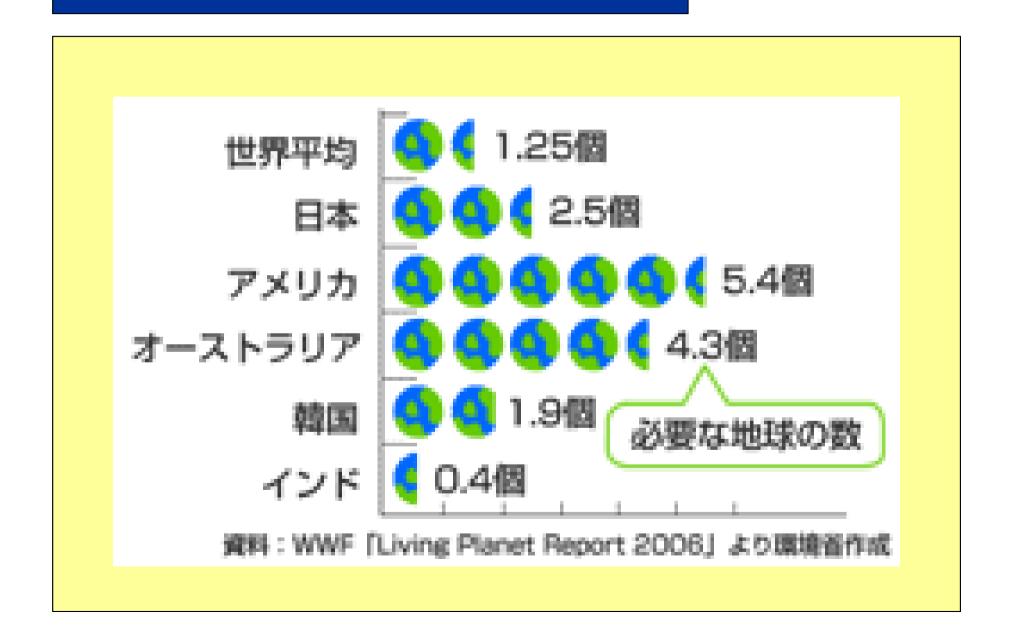
人間圏・自然圏における物質負荷・推移量をモニターする

6) OECD指標 などなど

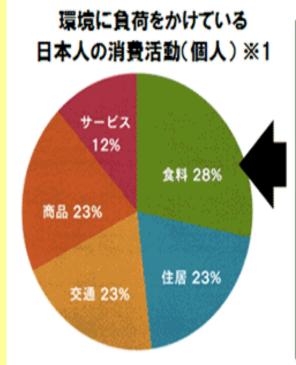
## エコロジカル・フットプリント

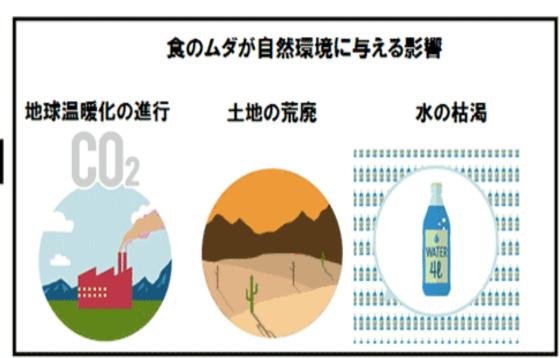


## エコロジカル・フットプリント



## エコロジカル・フットプリント





WWFジャパン『日本のエコロジカルフットプリント報告書2012』による

## 世界各国の指標事例

#### ・主要指標数は20前後の国が多い

NO.	事例	国名	概要
			15のヘッドライン指標の最新データをグラフでわかりやすく
1	持続可能な開発指標	イギリス(UK)	示している
			「世代間の公平性」「生活の質」「社会的まとまり」の3分野で
2	国家持続性戦略	ドイツ	21の数値目標を設定
			「効率性」「貢献と平等」「適応性」「次の世代の価値と資源」
3	持続可能な開発指標	スウェーデン	の4テーマで30の指標を設定
			持続可能な開発に関する社会、経済、環境のデータベー
			ス。
4	持続可能な開発のモニタリングシステム	スイス	※ドイツ語、フランス語のみ
			「世代間の公平性」「世界的責任」など8つのカテゴリーで64
5	持続可能な開発指標	フィンランド	の指標を設定。毎年更新されている。
			主要な指標として、8つの基本原則のもと、14の指標を設
			定。その他、気候変動、生態系保全などの各分野で指標を
6	国家持続可能な開発戦略	デンマーク	設けている。
			自然資本を中心とした6つの指標(大気環境、水環境、温室
7	環境と持続可能な開発指標	カナダ	効果ガス、森林被覆、湿地、学業成績)を設定。
8	持続性指標	オーストラリア	持続可能な開発の国家戦略として、24の指標を設定。
			20の基本方針のもと、48の指標が定められている。※ドイツ
9	国家持続可能な開発戦略	オーストリア	語
			社会、経済、環境にわけ、それぞれ「長期的な資源と負債」
10	持続可能な開発指標	アメリカ合衆国	「経過」「現状の結果」の3種類で計39の指標を設定
11	持続可能な開発全国指標	フランス	※フランス語のみ

#### 指標で何をするか? (1) - U.K.

進捗を確認し、政策を修正する

「UK持続可能な発展戦略」(環境食糧省Defra、1999年)の進捗をチェック

All species (106)

Woodland

95 2000

The index of farmland bird populations has nearly halved since its 1977 peak and has fallen by 18% since 1990, but has remained at about the same level over the last four years.

The woodland bird index fell by 29% between its 1974 peak &

1998 since when it has remained roughly constant.

species (33)

し、「進捗が思わしくない場合、政策を修正する」

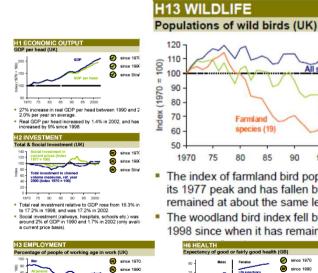
110

100 90

80

70

60



The percentage of working age people in work was 74.7% in 2003 – the same as in 1990.

The percentage for 2003 was 0.3 percentage points up on 2002 and was an increase on the 1999 figured of 73.9%.

## since 1970 aince 1990

Farmland

species (19)

- Between 1990 and 1999 healthy life expectancy increased only slightly, from 66.1 to 66.6 years for men and from 68.3 to 68.9 years for women. Overall life expectancy (75.1 years for men, 80.0 years for women) has increased more than healthy life expectancy.
- ncreasing proportion of those extra years are in poor health

#### By 2002-3, recorded robbery had risen to 108,000 from 67,000 in 1998-9 but was 11% lower than the previous year. since 1990 since Strategy 1990 1995 2000 2005 2010 · Emissions of the 'basket' of six greenhouse gases (on which

Farmland / Woodland

since 1970

since 1990

since Strategy (≈

- progress is assessed) fell by 12% between 1990 and 2001, and provisionally by 14% between 1990 & 2003. CO<sub>2</sub> emissions for 2003 were provisionally 7% lower than in 1990 but rose by about 1.5% between 2002 and 2003.

#### **Quality of Life Barometer**

#### Updated June 2004

Insufficient or no comparable data

Sustainable development is about ensuring a better quality of life for everyone, now and for generations to come.

The 15 Headline indicators of sustainable development - a quality of life barometer -SUSTAINABLE provide an overview of progress in meeting the DEVELOPMENT objectives of the UK Sustainable Development

(...)

	since 1990	since Strategy
Economic output	<b>②</b>	<b>⊘</b>
Investment	<b>@</b>	<b>@</b>
Employment	<b>@</b>	<b>Ø</b>
Poverty & social exclusion	<b>(2)</b>	<b>②</b>
Education	<b>②</b>	<b>②</b>
Health	<b>8</b>	<b>@</b>
Housing - conditions	<b>②</b>	<b>Ø</b>
Crime - robbery	8	
- vehicle & burglary	<b>Ø</b>	<b>⊘</b>
Climate change	<b>②</b>	<b>②</b>
Air quality	<b>⊗</b>	<b>(X)</b>
Road traffic - total traffic volumes	8	8
- traffic per GDP	<b>Ø</b>	<b>Ø</b>
River water quality	<b>②</b>	<b>②</b>
Wildlife - farmland birds	<b>(X)</b>	<b>@</b>
- woodland birds		<b>(2)</b>
Land use	<b>Ø</b>	Ø
Waste - household waste	8	8
- all arisings & management	•••	<b>(2)</b>

## (2) ドイツの指標

- 1) 2002年に "Perspectives for Germany" 国家持続可能性戦略を採択
- 2) 戦略は「世代間公平性」・「QOL」・「社会的まとまり」・「国際的責任」
- 3) Dialogue on Sustainability: 市民参加による戦略・指標の策定
- 4) 21の指標群: 世代間公正:9、QOL:6、社会的まとまり:4、 国際的責任:2、 環境・経済・社会のカテゴリーではほぼ等価
- 5) 「家族」「男女均等」「外国人」など多様な人々の平等・連携視点に重き
- 6) 国際的責任: ドイツ国内だけが持続可能になればよいのではない

#### (3) スウェーデンの指標

- 1) 2001年に持続可能な発展のための指標群:30が策定される「効率性」「公平性」「適応性」「次世代のための価値と資源」
- 2) 2006年: Critical Challenges a Further Elaboration of the Swedish Strategy for Sustainable Development: 12の指標
- 3) 過去約20年のトレンドとグラフ、一部将来展望あり
- 4) 目に付く独自指標: 高校への未進学率(効率性)、世代別人口、 総生産の地域格差(公平性)、起業数と倒産数、有機農業(適応性)、 社会福祉、教育、安全のGDP比率、バルチック海の漁業資源(次世代)
- 5) 横断的政策を支える、価値軸による横断的指標群

#### (4) ブータンの指標1

GNH(Gross National Happiness): 国民総幸福

1976年 GNH is more important than GNP. ワンチュク前国王の発言

- 1) 時間の使い方とバランス
- 2) よき統治
- 3) 人々の健康
- 4) 文化の多様性
- 5) 地域の活力
- 6) 生活水準・所得
- 7) 精神面の幸福
- 8) 環境の多様性と活力
- 9) 教育

2008年から「立憲議会制民主主義国家」に

# (4) ブータンの指標2

ブータン総合研究所

9つの指標群を支える4本の柱:

- 1) 健全な経済発展と開発
- 2) 環境の保全と持続的な利用
- 3) 文化の保全と振興
- 4) よき統治

近年、グローバリゼーションの浸透により、特に若い世代の幸福度に大きな変化が見られる。

# 持続可能性指標 所感: 有効性と限界

- 1) サステナビリティに関して「完璧な指標体系群」はあり得ない
- 2) 指標はきわめて<mark>恣意性</mark>の強いもの それゆえにうまく活用すれば、**政策誘導**に有効
- 3) 指標は測定結果に加え、策定のプロセスがきわめて重要
- 4) 体系性を持った指標は社会を視るコンパスになり得る
- 5) ビジョンと指標はセット: まず何を目指すかありき
- 6) 指標を扱うとそもそもの原点: サステナビリティとは一体何か? にまた戻ってくる ⇒ 哲学的な掘り下げが不可欠

#### 持続可能な開発目標(SDGs)(1)-2030年のゴール



# SDGs = Sustainable Development Goals 2030年に向け世界が目指すべき17の目標





































#### 持続可能な開発目標(SDGs)(2)—MDGsからSDGsへ



#### ●MDGsからSDGsへ

- SDGsは、2015年9月の国連総会において全会一致で採択。
- 背景には、2000年に定められた「ミレニアム開発目標(MDGs)」があった。
- MDGsは2015年をターゲットに、途上国の貧困・健康・環境などの解決を 目指して定められた8大目標(>21の個別目標>60指標)。
- 一定の成果が見られたものの、多くの課題も残されたMDGsに代わり、 2015年以降の新たな枠組みとして設けられたのがSDGs。

#### 持続可能な開発目標(SDGs)(3)—SDGsの特徴



#### ●SDGsの特徴

- •世界中の国とステークホルダーの連帯により、あらゆる貧困を撲滅するなど、 「誰一人取り残さない」ことを約束。
- •17の大目標(ゴール)と169の個別目標(ターゲット)を示し、持続可能な開発の3側面(経済、社会、環境)の調和を目指す。
- •5つのPにフォーカス
  - 1)People: 人々、2)Planet: 地球、3)Prosperity: 繁栄、
  - 4) Peace: 平和、5) Partnership: 連携

#### 一つの仮説



本来CSRは 企業の イノベーションエンジンに なり得るのではないか?

# CSRとは何か



CSRとは、心構えではなく、

一人ひとりの実践であること。

#### 持続可能性を業務課題とする



自分たちの日々の業務は 持続可能性の向上に 寄与していますか?

#### CSRの原点

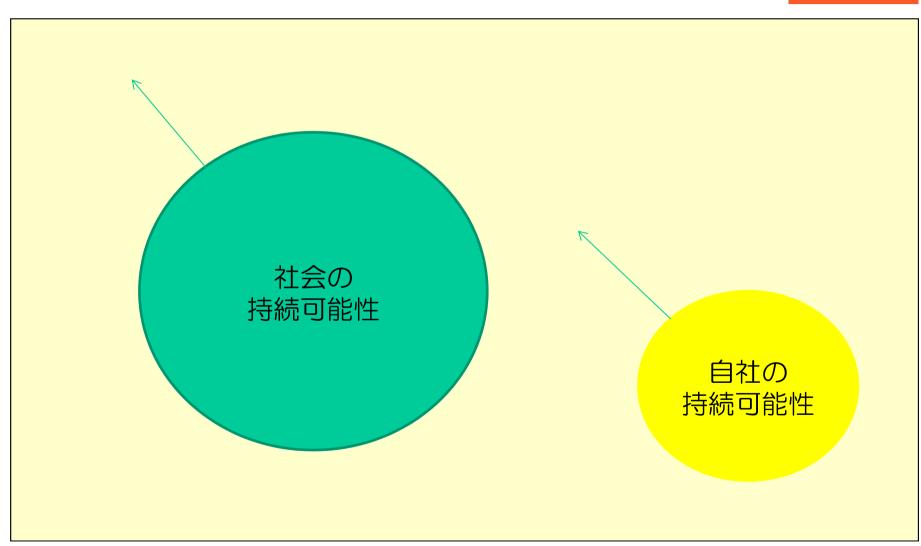


「企業を原点に社会を見るのではなく、 社会に原点を置いて 企業のあり方を考えるべき。」

(木川田一隆)

# 誰のための持続可能性か





### 課題の入り口と出口



入り口は社会的課題

出口はイノベーション

エンジンはCSR

#### 持続可能な成長のための前提条件



持続可能な社会像(日本、世界)がわかっていないと、企業の持続可能な成長は望めない。

企業の持続可能な成長が 持続可能な社会へのパラダイムシフトに 貢献していなければ、企業としての存在意義がない。